

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d…異形棒の呼び名に用いた数値 丸頭は径 D…部材の成 R…直径
 @…間隔 r…半径 L…中心線 L…部材間の内法距離 h…部材間の内法高さ
 S.T…あばら筋 H.O.P…帯筋 S…H.O.P…補強帯筋 φ…直径又は丸頭

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※4d以上）	8d以上（※4d以上）
折曲げ内法寸法	S.R.235は3d以上、S.D.295A、S.D.295B、S.D.345のD16以下は3d以上、D19以上は4d以上		

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度以下90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法（R）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	S.R.235 S.D.295A S.D.295B S.D.345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3φ以上 4φ以上
	上記以外の鉄筋	S.R.235 S.D.295A S.D.295B S.D.345	16φ以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D35	6φ以上 8φ以上

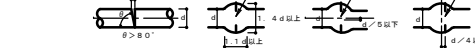
（３）鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（N/mm²）	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ（L）
		一般（L）	下ば筋（L）	
S.R.235	21～36	35dフックつき	25dフックつき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき		45dフックつき
S.D.295A	21～36	25dまたは35dフックつき	25dまたは10dかつ15cm以上	40dまたは35dフックつき
S.D.295B	18以下	40dまたは35dフックつき		45dまたは35dフックつき
S.D.345		30dフックつき		

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直接の異なる鉄筋の重ね継手長は、細い方の鉄筋の継手長とする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



（４）かぶり厚さ（単位：mm）

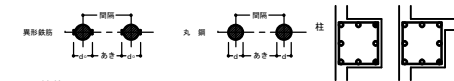
ひびわれ発生し難い鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。

部 位	設計かぶり厚さ（mm）		設計かぶり厚さ（mm）
	部 位	設計かぶり厚さ（mm）	
土に接しない部分	底層スラブ 床スラブ 歩道スラブ	厚 内 30 厚 外 40（20）	20 30（20）
	柱 はり 脚 型 壁	厚 内 40 厚 外 50（40） 50（40） 50（40）	30 40（30） 40 40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・脚型	50	40
	基礎 橋 脚	70	60

- 注：（１）耐久性上有効な仕上げがある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
- （２）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- （３）コンクリートの品質および施工方法に依り、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
- （４）軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
- （５）（ ）内は仕上げがある場合。

（５）鉄筋のあき

丸頭では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1. 5d以上 図の●印の鉄筋の重ね継手の



（６）鉄筋のフック（a～iに示す鉄筋の末端にはフックを付ける。）

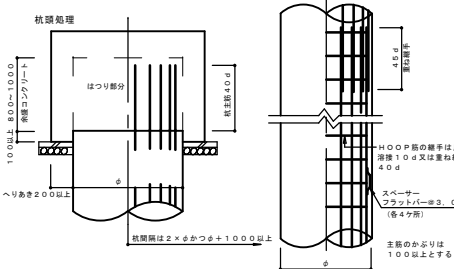
- a. 丸頭 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
 d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出す部分の鉄筋（右図参照）
 e. 単列梁の下端筋
 f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

（１）P.R.C杭、又はP.H.C杭の全てに補強を行う

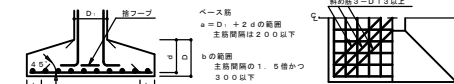
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭 径 300φ、350φ、400φ	杭 径 450φ、500φ、600φ
補強筋 6-D13、8-D13、10-D13	補強筋 8-D16、10-D16
H.O.P. D10～D150	

（２）現場打ちコンクリート杭

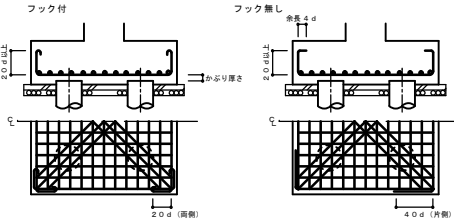


４．基礎

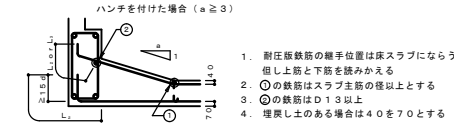
（１）直接基礎



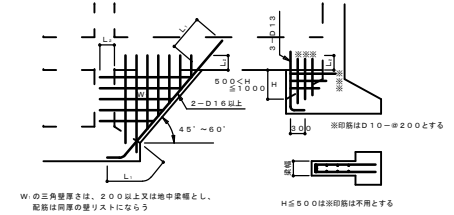
（２）杭基礎



（３）べた基礎

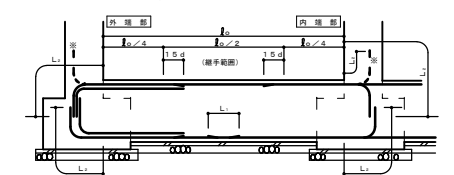


（４）基礎接合部の補強

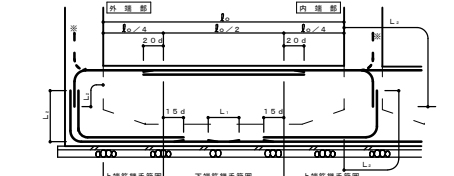


５．地中梁

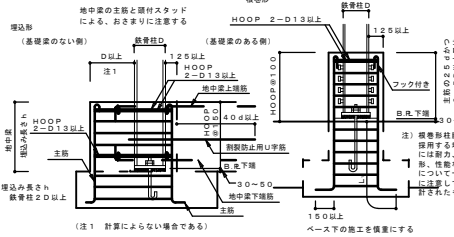
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



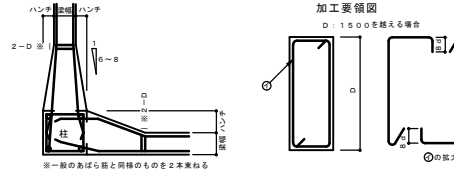
（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



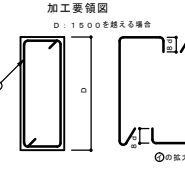
（３）小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



（４）水平ハッチの場合のあばら筋加工要領

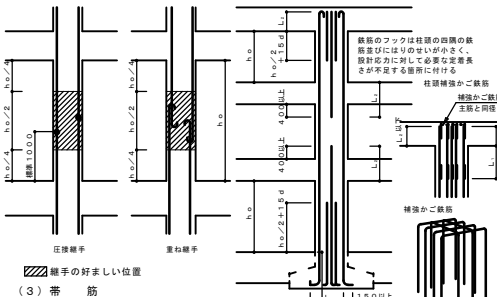


（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領

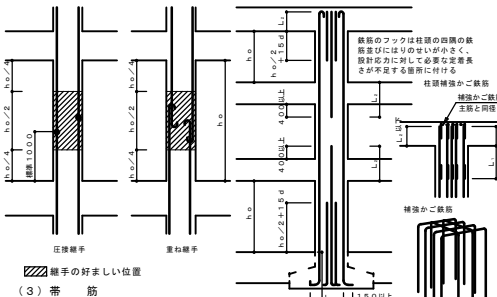


６．柱

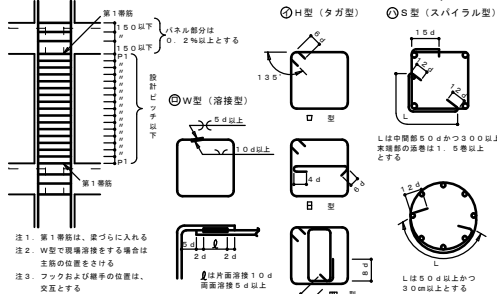
（１）柱主筋の継手



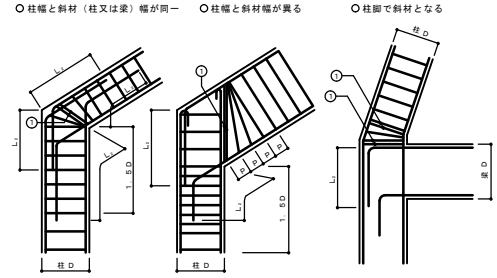
（２）柱主筋の定着



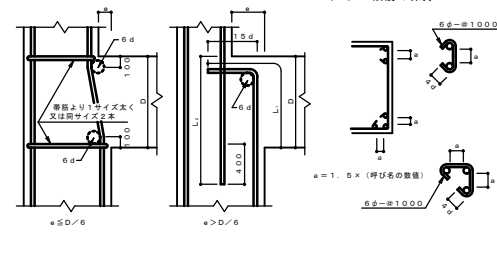
（３）帯筋



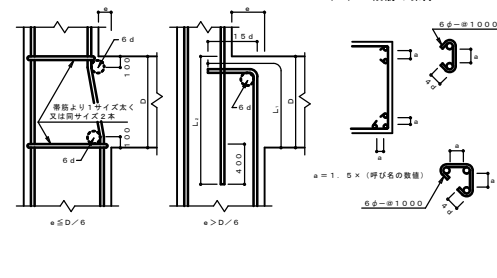
（４）斜め柱・斜め梁



（５）絞リ



（６）二段筋の保持



〒259-1305 秦野市堀川13-2
 （株）岩田幸司設計事務所
 1級建築士事務所
 TEL 0463-88-3007

平成17年度秦野市くずは青少年野外センター再整備事業附属棟建築工事
 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

図面番号
 S-002